

## 入選

### 親切は勇気を出すことから

香川県 牟礼中学校 1年 久部 藍子

私は、夏休みに母と親戚のおばのお見舞いで病院に行きました。病院に入ると、廊下におじいさん、おばあさん夫婦がいました。おじいさんが車いすに乗っていて、おばあさんが押していましたが、なんだかうまく押せていないようでした。すると母が、

「その車いす、パンクしているみたいですよ。乗り換えた方がいいですよ。」

と、出入口のところにおいてあった別の車いすのタイヤを確認して持ってきました。おばあさんは、

「すみません。ありがとうございます。」

と言って、何度も頭を下げてくださいました。私は、母の自然だけれどテキパキと行動する姿に、かっこいいなと感心しました。

おじいさんは車いすを乗り換えて、おばあさんが押し始め、私たちが前を行っている、今度は後ろから、

「こっちで合っとんか。早う行かな、時間が来よるぞ。」

と、おじいさんが怒っているような声が聞こえてきました。どうやら受付の場所がわからないようでした。その入口は正面玄関ではなく、駐車場から近い入口だったので、受付は別館で、病院の職員の人にも近くにいませんでした。

私は、二人が気になり、さっきは何もできなかったけれど、今度は私がやってみようと思いました。私は母に先におばの部屋に行ってもらおうよう言い、おじいさんたちのところまで戻り、

「受付までいっしょに行きましょうか。」

と声をかけました。二人は「すみません。」とまた何度も頭を下げてくださいました。私が車いすを押して行きましたが、おばあさんの歩くペースに合わせゆっくり歩くよう心がけました。

無事案内でき、受付もできましたが、その後も気になって、内科までいっしょに行くことにしました。内科は二階だったので、エレベーターの乗り降りにも気をつけました。

無事内科まで行くことができ、二人から、

「助かりました。ありがとう。ありがとう。」

と何度もお礼を言ってもらえ、二人の笑顔を見て、私もうれしくなりました。なんどもお礼を言ってもらえて、私は（そんなにたいしたことは、していないのにな。）と思いました。そう思うと、困っている人に声をかけ手助けすることは、そんなに難しく考えることではないのだと思いました。

おばの部屋に行き、母に無事案内できたことを話すと、「役に立ててよかったね。」と言ってもらえました。私は、改めて人の役に立てたのだと思うと、うれしくて清々しい気持ちになりました。

私は今まで、困っている人に気づいても、知らない人に声をかけることが恥ずかしくて何もできませんでした。でも、勇気を出して声をかけることが大切なのだと思います。自分ができることをすればいいのだと思います。親切にすることは、思っているだけでは相手に伝わりません。まず勇気を出して行動することから始まるのだと思いました。